

学校防災活動を支援する防災委員会を中心とした防災訓練

高等学校 全学年

I 避難訓練・防災訓練等の年間指導計画

1 年間を通して生徒に身に付けさせたい力

- (1) 災害発生時に教員及び防災委員の指示により、全生徒が迅速かつ安全に避難できる力
- (2) 避難時の指示に従い、各生徒が状況を判断し、適切な行動できる力

2 年間計画

回	ねらい	防災委員等の活動	避難訓練の内容	防災教材や教科との関連
1	防災活動の中核に育成していく。	・年間活動計画の立案・委員の役割分担	・避難経路の確認と避難経路図の作成	○「地震と安全」 ・自分の命を守り、身近な人と助け合うために ○防災ノート「東京防災」 ・外出時に大地震が起きたら ○公民、理科、保健体育
2		・「Stand up Summit2015」※に向けての準備		
3		・「Stand up Summit2015」※セッションプログラムのグループ分け、事前学習		
4		・防災委員による避難指示・避難誘導	・地震発生を想定した避難訓練	
5	様々な場面で防災委員が主体的に行動を起こすことができる。	・「Stand up Summit2015」※参加（希望者）		○「地震と安全」 ・東京で大地震が起こると ・緊急地震速報を有効に活用するために ・避難訓練や防災訓練の意義 ○地理歴史、情報、理科
6		・地震後の火災を想定した訓練 ・宿泊防災訓練で防災委員の役割の確認		
7		・宿泊防災訓練での消防署・消防団との連携		
8		・宿泊防災訓練での初期消火訓練 ・応急救護講習	・昼休みの火災を想定した避難訓練 (P77)	
9	地域防災の安全に配慮し、貢献できるようにする。	・消火訓練、応急救護訓練、要介護者の避難誘導訓練、炊き出し訓練	・地域の避難訓練・防災訓練に参加	○災害の発生と安全・健康 「3.11を忘れない」 ・適切な応急手当と災害発生時の行動 ○「地震と安全」 ・身近な人を助け、更に地域に貢献する ○保健体育
10		・地域の防災会議での意見交換		
11		・避難所設置開設訓練 ・備蓄倉庫整理、備蓄物品の確認		


※「Stand up Summit2015」とは、東北、東京、海外から集まった復興を担う若者たちが、自分たちの未来と東日本大震災の被災地の復興について考え、議論し、発信する復興支援イベントです。

II 避難訓練の実際

- 1 年間計画の位置付け、想定場面
第2回避難訓練
「昼休みの火災を想定した避難訓練」
- 2 ねらい
 - ・防災委員の生徒が適切な判断に基づいた行動と誘導指示ができるようにする。
 - ・指示に従い全生徒が迅速かつ安全に避難できるようにする。
- 3 訓練の実際

【想定】

- ① 校舎1階で火災発生
- ② 昼休み
- ③ 防災委員が避難誘導

	時間の推移	生徒の活動	指導上の留意点
事前指導	○防災委員会開催	○事前に委員が会議を開き、検討事項を話し合う。	◎避難訓練の内容や状況を伝え、委員の役割分担や活動内容を確認させ、避難経路及び集合場所を指示する。
避難訓練	○放送による避難指示  (防災委員の生徒)	○放送の避難指示を聞き出火場所、避難経路と集合場所を理解する。 ○教員、防災委員の指示、誘導に従い校庭に避難する。 ○校庭に整列する。 ○報告 教員の指示を受け、防災委員が避難者の確認を行い、事故者の有無を報告する。 ○講評 防災委員が避難の様子を振り返り、発表する。	◎教員・防災委員は出火場所、避難経路、集合場所を把握し避難指示、誘導を行う。 ◎教員は防災委員も含めて生徒の人員確認、安全確認をする。 【報告事項】 HR名・在籍・出席・欠席・事故者の有無 ◎防災委員の動き、生徒の避難行動を中心に課題や改善点等を明確に伝える。
事後指導	○防災ノートに記入	○避難訓練の自己の判断や行動を振り返る。	◎避難時の判断や行動を振り返り、課題や日頃からの心構えについて考えることができるようにする。 ◎防災ノートを活用し、災害時の行動を調べまとめる。

生徒の避難時の行動の変容

避難訓練に積極的に参加するようになり、日常的に災害時の心構えや防災に対し深く考えるようになってきた。また、自助・共助の意識も育成され、災害時にできることを当事者意識をもち取り組むようになった。